

中学校

- 主題名 家族への愛 (C 家族愛、家庭生活の充実)
- 教材名 「一冊のノート」(『私たちの道徳』中学校)
- ねらい 父母、祖父母への敬愛の念を深め、家族を思い愛する道徳的心情を育てる。
- 学習指導過程

	学習活動 (主な発問と予想される生徒の反応)	具体的な指導・援助
導入 5分	1. これまでの自分の体験を出し合う。 ○最近、家族に感謝したことはどんなことですか。 ・雨の日に車で迎えに来てくれた。 ・誕生日にプレゼントをもらった。 ・おいしいご飯を作ってくれた。	・生徒の家庭環境に配慮する。 ◇ねらいとする価値への方向付けを行います。出された意見は肯定的に受け止めるようにし、和やかな雰囲気作りを心がけます。
展開 42分	2. 教師の範読を聴く。 ○主人公の気持ちが分かるところに線を引きながら聴きましょう。 3. 登場人物の確認をする。 ○主人公は「ぼく」ですね。 4. 主人公の祖母に対する気持ちを考える。 ○一冊のノートを見るまで、「ぼく」はおばあちゃんのことをどう思っていましたか。 ・物忘れがひどくて困ったものだ。 ・迷惑だ。 ・いい加減にしてほしい。 ・恥ずかしい。 5. 一冊のノートを見た「ぼく」の気持ちを考える。 ○一冊のノートを見て、「ぼく」は何を思いましたか。 ・おばあちゃんは苦しんでいたんだな。 ・これからはおばあちゃんを助けるよ。 ・長生きしてほしい。 ・今までつらくあたってごめん。	・気持ちを込めて読む。 ◇生徒に答えさせるのではなく、教師が確認することで、主発問等の時間確保を図ります。 ◇ここでは、主人公が「ぼく」であることを明確にします。 ◇生徒は範読のときに引いた線を見ながら、教材の文章をそのまま答えることも予想されますが、「なぜそこに線を引いたの？」等、生徒がそこに線を引いた理由等を問い返すことが大切です。 ☆補助発問 「いろいろなことがあったけれど、『ぼく』はおばあさんのことをどう思っていましたか。」 ☆補助発問 「○○さんは、こういう意見ですが、あなたはどう思いますか」 ◇家族的・多角的に考えるため、生徒の意見をつなげ、確かな価値理解をしていくことが大切です。 ◇「予想される生徒の反応」を多く準備しておくこと、出された意見を、似た意見や異なる意見ごとに、黒板に素早く適切に整理することができます。

	<p>6. 自分の家族について考える。</p> <p>○今までの自分を振り返り、今、家族に伝えたいことを書いてみましょう。</p> <p>◇自分との関わりを大切にするための発問です。</p> <p>◇ねらいとする内容項目に関係しない感想等になっている場合は、ねらいに迫る発問を再度行います。</p>	<p>・ワークシートに書かせる。</p> <p>☆補助発問</p> <p>「今まで部活動等で送迎やお弁当を作ってもらったことはありませんか」など事例をあげて見つめやすくします。</p>
<p>終末3分</p>	<p>7. 「家族」についての記事の紹介を聴く。</p> <p>◇終末は、生徒一人一人が、自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感でき、確かめることができるような工夫が求められます。</p> <p>◇そのためにも、日頃から新聞記事、本などから材料集めをしておくことが大切です。</p> <p>◇生徒への叱責、訓戒や行為、考えの押し付けにならないよう注意する必要があります。</p>	

<板書計画>

◇同じ意見はネームプレートで示すなどし、発言の内容は整理して書きましょう。

◇黒板の一番左に、導入時に出された生徒の意見を書いておくと、結果的に終末で考えさせたい発問の隣となり、生徒が自分を振り返るときの参考にしやすくなります。

◇登場人物を絵で示すと身近に感じることができます。

◇意見を言うのが苦手な生徒には、「どれが自分の気持ちに近いかな」などと板書を活用して問いかけると、自分との関わりをもたせることができます。

第 回 道徳「一冊のノート」

年 組 番 名前 ()

○一冊のノートを見るまで、主人公はおばあちゃんのことをどう思っていたらう。

○今までの自分を振り返り、今、家族に伝えたいことを書いてみよう。
